ネーブ

～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会　女性委員会
2017 年　秋号
第 91 号

富山県美術館

目　次

■　３委員会合同見学会　～越中富山はキトキト建築旅～	安田　千鶴代	１ページ
■　びわこペーロン大会に参加して	山本　規子	３ページ
■　和室部会の活動	岩城　由里子	４ページ
■　私の好きな建築探訪	上田　壽子	５ページ
■　セミナーのお知らせ「第３回　くらしとすまいをみつめる」		６ページ
■　今後の事業予定		７ページ

３委員会合同見学会
越中富山はキトキト建築旅
安田　千鶴代

平成29年9月23日(土)～24日（日）、参加者32人がバスに乗り富山県へ建築見学旅に向いました。

■株）能作本社（経済産業大臣賞）

慶長14年加賀藩主前田利長が高山の町を開いてから商工業の発展に努め、現在の鍛冶屋町に鋳物師(いもじ）をまねき高岡銅器が始まった。この技術を活かし（株）能作は大正15年創業、昭和42年設立、仏具製造から茶道具・花器を製造、近代はテーブルウェア･インテリア雑貨等世界からも注目を集める。本社は、平成29年４月27日OPEN。（アーキビジョン広谷スタジオ設計）「工場と観光施設を一つにしたい」と云う社長の思いから工場、オフィス、カフェ、ショップ、体験工房からなる4000坪の産業観光施設である。新社屋の屋根は、鋳炉をイメージした赤色でエントランスの壁面には真鍮の切金張り、カフェ内外壁面には錫の切金張りが使われている。

鋳炉をイメージした赤い屋根　　カフェ壁面は錫の切金張り

室内に入ると土間には真鍮製の日本地図が埋め込まれている。正面の壁面いっぱいに自社の製品鋳物の木型（2500枚）が展示、圧倒される。天井は富山産の杉材が使われている。ショップは床から大屋根天井との高さのバランスを考えH：1500（杉材）の商品ケースで区切られているが、入り口から隣に続くカフェまでフロアー全体が見渡せる。見学時間15分のなか、錫の干支杯を買って近くの海鮮屋で昼食。

■曹洞宗　高岡山　瑞龍寺

山門・仏殿・法堂は平成9年国宝指定。（禅宗七堂伽藍形式）山門は軒が深く禅宗寺院山門の代表的なもので、仏殿は棟札に万治2年（1659年）建立とあり屋根は鉛板で葺かれ、これは金沢城石川門の例を見るのみで貴重な遺構である。屋根の重さを受けるため海老勾欄が四方角に各3本架けられ、四辺にも数本掛けられ見事な架構で屋根の荷重を受けている。法堂は明暦年間（1655～1657）竣工、境内第一の大建築で建坪186坪。構造は方丈形式書院作り、総檜作りとなっている。御朱印帳に朱印を頂き出発。

■高岡市美術館（公共建築百選）

1994年9月OPEN（内井昭蔵建築設計事務所設計）外観は高岡市の鋳物技術を活かしたアルミキャストの屋根が波打つ回廊と、本館の外壁は地元庄川産「紅桜」の砕石を使った塗壁で、半地下部分は曲線が生かされた大きなガラス張り、1階内部の螺旋階段コーナー吹抜け部分は上部窓から柔らかい自然光が降り注ぎ設計者の「健康な建築」の理念が感じられる。又、サインプレートやドアの引き手、ゴミ箱、ベンチ等地元のアルミキャストが使われている。

波打つ回廊屋根と紅桜の本館壁　　螺旋階段から落ちる自然光

設計者の内井昭蔵氏は世田谷美術館や吹上新御所、国際日本文化研究センター等多数の作品がある。

■高山市伝建地区　山町筋（土蔵作りの商家）

JR高岡駅南側に位置する山町筋の商家建築群で、明治32年(1900)の大火災直後に再建された菅野家(国重要文化財）見学。明治33年富山県令第51号「建築制限既製」により繁華街の建築物は土蔵作りなどの耐火構造が義務付けられ、菅野家は2階の観音開き土扉窓、両袖には御影石のウダツ柱付施釉レンガ造の防火壁、1階正面道路側と中庭に面する縁には

重厚な屋根と観音開き土扉　　防火壁正面石柱施釉レンガ造

鉄板を張った防火戸を設置し、災時には貝が蓋を閉じたような構造となる。店先軒裏の漆喰塗込めとした深い出庇は、柱頭にアザレアをデザインした鉄の柱で受けている。屋根には、鯱や雪割を付け雷文を施した大きな箱棟が目を引くが、この地域の共通した意匠であり他にも数件みられる。

■富山県水墨美術館：墨光庵（うるおい環境とやま賞）

数寄屋建築の第一人者である中村外二が最晩年に手掛け、長男に引き継がれ完成した茶室。立礼席と立水屋、八畳の茶室と水屋からなる。立礼席の天井は和紙貼り。床柱は栗の原木。八畳との間は二枚引込み襖（間口二間）で仕切られ、全て引き込むことにより開放された一つの空間となる。正面には床の間と脇床があり、床柱は杢目の揃った立派な赤松で庭園側は幕板付き四枚引違いの障子を開けると四季折々の景色が楽しめる。此処で本日の見学終了。

■富岩運河環水公園～富山県美術館

朝7時30分、富山駅前ホテルより富岩運河環水公園に朝の散歩を兼ねて20分歩く。公園は富岩運河の船だまりを利用し水辺の空間を中心に憩いの場で園内には全世界のスターバックス店舗の中から、優れたデザインの店舗に送られる最優秀賞を受賞した「スターバックス環水公園店」でシナモンの効いたアップルパイとコーヒーでひと息。運河沿いの遊歩道を歩いて富山県美術館（設計：内藤廣）の屋上オノマトペ（フランス語で擬声・擬態語の意）に。美術館のコンセプト：1階はエントランスホール、管理、パーキング。2階はアート。3階はドローイング。屋上は子供。屋上からは環水公園や立山連峰が見渡せる。屋上はオノマトペを体感できる遊具が有り子供達の楽しみの場であり、２階のアートコーナーは県産材の杉のスティックを使った天井、壁、建具のデザインが気持ちよく居心地が良い。

スターバックス環水公園店

富山県美術館

ＦＵＷＡ　ＦＵＷＡ

ひそ　ひそ

■富山市ガラス美術館

RIA・隈研吾・三四五設計共同体。

富山市西町交差点、旧大和百貨店跡地に建つ再開発ビル。地上５階建て外装はガラスとアルミキャストの地元の素材を組み合わせ「ガラスの街とやま」を表現している。内部の斜めに繋がる吹き抜け部分は避難安全検証法に依って竪穴区画をクリアーし、光の筒を中心にミュージアムとライブラリー、図書館が繋がり開放的な空間となっている。

ガラス美術館吹抜け

高志の国文学館アルミキャスト

■高志の国文学館

伊藤恭行/シーラカンス設計。

越中国守を努めた大伴家持の「越中万葉」の時代から近代現在に至る多くの他分野に渡る作家、アーティストを紹介する場として、文学館が旧知事公館に平成24年4月開館。既存の建物と庭を尊重しながら新しい空間の形成を実現している。外壁、内壁共地産のアルミ鋳物パネルを使い、表面に越中万葉で読まれた植物の葉がランダムに鋳込まれ、1900枚のパネルがすべて異なるパターンとなっている。万葉の庭に面した土間の大開口ライブラリーコーナーは柱や梁を絞り込み大きなキャンティレバーを受け、庭の景色を十分に取込み楽しむ事が出来る。今回の旅も天気に恵まれ無事帰路につくことができました。

びわこペーロン大会に参加して

山本　規子

平成29年8月20日、琵琶湖サンシャインビーチで開かれたペーロン大会に、初めて漕ぎ手として参加させていただきました。ペーロンといえば長崎が思い浮かんでいたのですが、発祥の中国湖南省と滋賀県が姉妹県という縁で、平成3年に初めて開催されてから27回を迎える大会だそうです。

当日、奈良は朝からカンカン照りの蒸し暑い日で、この頃アウトドアスポーツにはとんとご無沙汰をしている身にとって、大丈夫か？と思っておりましたが、応援団（主人&愛犬）と車で琵琶湖に着くと、湖面を渡ってきた風は爽やかで、湖畔にそって白い砂浜、緑の芝生、遊歩道、松並木と、開放感いっぱいの景色が広がっていました。

建築士会からは、10人漕ぎ混合の部に滋賀県のメンバーが1艇と、女子の部に近建女から1艇参加しましたが、周りにはＭｙオールやＭｙベストで極めたところも多く、掛け声を掛けながら事前練習をしている様子を見ると、また、私たち大丈夫か？でした。

予選1回目、「太鼓に合わせて声を出して、オールの動きを揃えること。手だけで漕がないで、身体全体を使うこと。」など、漕ぎ方のレクチュアーを受け、いざ本番となりました。

乗り込んだ桟橋から、スタート地点までが初めての練習でしたが、思ったより重い水になかなか前に進まないところから、みんなのリズムが合ったのか、滑るように前に進む瞬間があり、これは気持ちいい～。2回目には、少し要領もわかり、なにより適確なアドバイスのおかげで、順位は置いておくことにして、30秒あまりタイムが早くなりました。

近建女の会議や、懇親会、見学会で顔を合わせているメンバーではありますが、文字通り力をあわせての作業は、より一層の団結力に繋がったと思われます。参加団体を見ても、企業からの参加が多いのもこういった理由からかもしれません。

レースの合間の休憩時間には、山本会長をはじめ、滋賀県建築士会の方々から、お弁当、飲み物、お菓子、果物等、心のこもったおもてなしをいただきました。愛犬もさんざん甘やかしていただき、ご満悦の様子でした。

当然、翌日の筋肉痛を覚悟していたのですが、力の入れ方が足りなかったのか、もはや痛くなる筋肉すらないせいか、さほどの事もなくほっとしました。

前には応援だけでの参加はあったのですが、今回漕いでみて初めて魅力に嵌りました。「馬には乗ってみよ。ペーロンは漕いでみよ。」本当に楽しかったものですから、次回こそ皆様も参加してみられることを強くお勧めします。

和室部会の活動

岩城　由里子

昨夏、奈良で開催されました第26回全国女性建築士連絡協議会（全建女）から、早くも1年が過ぎました。奈良大会でのテーマ「日本の暮らし　豊かな生活文化の再発見」では「和室」に焦点を当て、和室に関するアンケート調査も実施しました。その後に大分で開催された全国大会の女性委員会の発表では、アンケート結果のさらなる考察と全建女奈良で基調講演をしていただいた渡辺光雄先生のご講演内容のまとめ及び、いくつかの地域の和の空間についての発表が行われました。今夏開催された全建女でも「和の空間を考える」というテーマが引き継がれており、いま、和室の良さや和の暮らしを見つめなおす志向が、全国の女性委員会を中心にじわじわと広まっているように感じます。さらに今年度の連合会女性員会の事業では、建築士ならではの視点で「魅力ある和の空間」を紹介するガイドブック（データ版・連合会ＨＰに掲載）を作成することになったそうで、掲載物件の募集が始まりました。（平成30年度7月に公開予定とのことです。）

和室に見る伝統技能と本物の素材の魅力とともに、地域の気候風土に適した家のあり方、エアコンに頼らずとも快適に暮らすことのできるエコな住まい等、和の住まいを見つめなおすことが豊かな未来をつくるヒントとなるように思います。また、和室を知らない若い世代の建築士が和室の魅力を知り、和室の設計技術が次世代へと継承されることには社会性があり、大きな意味を持つと考えられます。古来より長く熟成され続けてきた日本独自の木造技術の継承が、ここ数十年の社会の変化や経済的事由により途切れようとしていることは明白で、未来において大きな損失になると考えられます。わたしたち建築士が和室や和の暮らしの魅力を発信し実務の中で実践することも、伝統技術が継承される一つの手段だと思われます。

さて、和室部会の活動についてですが、昨年度は全建女奈良の開催に全精力を注いでいたため一段落した後の活動も停滞気味ですが、こうして全国で気運が高まる中、逆に刺激をいただきながら勉強会を開催したいと思います。

直近の勉強会兼見学会として、改修工事中の民家や塔頭の見学及び､銘木店の見学を企画しています。（天理、桜井、吉野方面　12月16日（土）開催予定）決まり次第、みなさまにお知らせさせていただきます。

奈良には、まだまだ多くの古い建物が存在しており、田園風景の中に甍の波を形成する集落が点在する風景は本当に素晴らしいと思います。和の建築や和室という建築的視点の他、古い建物がどういうものであるか、簡単に壊して建て替えるのではなく傷んでいる部分を直して使うというわたしたちが昔から続けてきた「意志」、そこで営まれ続けている家族の暮らしや記憶、建物の命という根源的な視点で見ていただければと思います。

今後の活動として、左官、瓦、畳、材木など、日本建築に使われる素材にスポットを当てた勉強会や体験会のほか､床の間のある和室のパースを描く（すでに宿題が出ております）や、小さな和室（茶室？）をモックアップでつくってみる？という壮大な企画も上がっています。こんなことをしてみたら？というご意見もどしどしお寄せいただきたく思います。（企画メンバーも常時募集中です！）

勉強会では女性委員だけでなく多くの方にご参加いただき、ともに和室を学び意見交換が出来る機会をつくれればと思います。女性委員会の諸先輩方には和室の知識・設計経験とも豊富な大先輩がたくさんおられますので、ご経験談などもお聞きできる機会があればと思います。

みなさま、和室部会の活動に奮ってご参加いただけますよう、宜しくお願い申し上げます。

私の好きな建築探訪

上田　壽子

はて・・・何を書く・・・と思ったとき、私の好きなものといえば旅・酒・？！とくるか？！アンテナをいっぱい張り巡らせてキャッチする新しい建物！自分で設計はできないけれど、どこかにごひいきの建築家が何か造った・・との情報が入ると、いてもたってもいられなくなる。すぐに切符の手配、安く早く着くにはどうしたらいいか。頭の中を駆け巡る。

★今年初夏「もうすぐ世界遺産」のコピーを見た。佐渡島の金を中心とする佐渡鉱山の遺産群。新潟からジェットフォイルで1時間5分。金山に興味はないけど、北沢浮遊選鉱場跡は昭和12年ごろのコンクリートが姿を見せる。なんという迫力！デザインの高さに圧倒された。

・左は約100mある浮遊選鉱場。金銀の純度を高めた。

・右は50mシックナー。工業用水の確保に使われた。

ついでに北前船が着いた宿根木の伝建地区も見学。

◎北前船の航路にものすごく興味がある。「人は陸を物は水を」という徳川幕府の政策で北前船が栄えた。日本列島は弓形で太平洋側は黒潮が流れている。一度難破すると船は東へ流される。ジョン万次郎が鳥島に流れ着いたように・・・。日本海側はもしも難破しても西からの偏西風により日本のどこかに流れ着くということらしい。江戸時代北前船により栄えた各地を訪れるのも楽しみの一つである。

★夏は二カ所の迎賓館を見学できた。一つは赤坂にある片山東熊設計の東京迎賓館。洋風建築で欧米に追い付け追い越せの気迫がうかがえる。もう一つは京都迎賓館。京都御所内の東に位置する。中村昌生先生が監修された。やはり落ち着く。建物はもちろんのこと、京指物、つづれ織り、截金、表具、畳どれをとっても現在最高の技を集めてある。中央5列は目が異なる中継ぎの畳などここでしか見られないのではないか。庭園は修学院離宮や野村碧雲荘のように舟遊びができるような設えにもなっており、海外のVIPの遊ぶ写真も掲示されていた。渡り廊下の天井にトンボや蝶の形の換気口があり隠れた部分、細部にも心を込められた建物である。

・左は庭を望む京都迎賓館　屋根は硬質なニッケルクラッドステンレスの一文字葺き。

・右は赤坂にある迎賓館。屋根にサムライ姿の屋上飾り（？）（なんというのか！？）日本らしさを少し残したかったからか？茶室を持つ別棟で谷口吉郎氏による和風別館もある。

★ほかに春近しのころ熊野古道の入り口まで行った。古道を歩くなどしんどいことはムリ！だから熊野古道センターでちょこっと歩いた気分になった。和歌山県側と三重県側に二つのセンターがある。それぞれ県産材をふんだんに使った木造の建物である。北欧からの観光客が増えているとのこと。自然大好き人間がよく歩いている。もちろん女性の一人旅姿もよく見かけた。「和歌山県立世界遺産センター」は本宮大社のすぐそばにあり、ビジターセンターになっている。設計は香山壽夫氏で2009年築。三重県側は尾鷲市にあり「三重県立熊野古道センター」といい、やはりビジターセンターである。設計はアーキヴィジョン戸尾氏で2009年築。どちらも木造で梁の組み方がようわからん・・・！

・左は和歌山県側センター　・右が三重県側センター

スケール感があり久々に面白かった！

◎だいたいこういうところに行っても美術館に行っても展示内容はそっちのけで、建物細部の納まりや素材など叩いてさわって見てしまう。時々注意を受ける。でも好きな建物に出会えたらしみじみと心穏やかな豊かな気持ちになりうれしくなる。新しい発見が私の生きる道生きがいかもしれない。いや確かにそうです。

第3回　くらしとすまいをみつめる

地域にある気候風土に適応した住宅を造るために

パッシブデザインの基礎を知り、省エネルギーな暮らしを
提案するために必要な設計手法と事例を学ぶ

申請中

主催・企画／近畿建築士会協議会女性部会

「くらしとすまいをみつめる」をテーマに、社会的課題の解決方法やストック社会に向けて、建築士として知っておくべきことを主眼においた継続セミナー・勉強会も３回目を迎えました。

近年は住宅の省エネルギー化に向けて、様々な施策が始まっています。外皮計算や一次エネルギー等、基準に応じた住宅を計算し、提供することが義務付けられ始めました。同時に、地域で長い年月をかけて培われてきた伝統的な住宅を造り続けることができるような認定ルールの策定も始まっています。私たち建築士は、その両方の特徴を捉え、未来に残す建築物について考えなければなりません。

そこで、本セミナーでは、気候風土を生かした住宅を作るために必要なパッシブデザインの基礎を知り、省エネルギーな暮らしを提案するために必要な設計手法と事例を学びたいと思います。

日　　時　：　平成 30年 2月 10日（土曜日）
13：00から受付開始

会　　場　：　日本綿業倶楽部（綿業会館）
〒541-0051　大阪市中央区備後町2丁目5番8号

参 加 費　：　¥1,000円（建築士会会員）
¥1,500円（一般　・会員外）　　CPD単位　：　申請中

◆　タイムスケジュール　◆

13：00　受付開始
13：30　講演会開始
15：00　休憩
15：15　質疑応答
15：45　終了

※ 当日は館内見学が可能です

講師　豊田　保之（とよだ　やすし）

1974年京都市生まれ。大阪芸術大学芸術学部建築学科卒。
瀬戸本淳建築研究室、Ms建築設計事務所を経て、2005年　トヨダヤスシ建築設計事務所開設。京都で代々続く左官職人の家に生まれた経歴から、土壁や漆喰など左官職を生かした家づくりを行いつつ、土壁の熱環境や省エネの調査・研究を続けている。

受賞歴：第五回サステナブル住宅賞　国土交通大臣賞
他　多数

<申込先>
右記申込書に必要事項をご記入の上
faxまたはメールにてお申し込み下さい

（一社）奈良県建築士会　事務局
FAX：0742-33-4333
E-Mail：info@nara-kenchikushikai.or.jp

※ご記入戴いた情報は、上記以外の目的に用いません

申込締切日　12/20

◆　申　込　書　◆　平成30年2月10日（土）セミナー申込

ふりがな
氏　名

・会員　　・会員外

CPD番号

連絡先（Email又はTEL/FAX）

今後の事業予定

平成２９年

□１１月１２日（日）
　　文化財建造物専門家育成講習会

□１１月２１日（火）
　　既存住宅状況調査技術者講習（新規講習）

□１１月２２日（水）
　　監理技術者講習

□１１月２６日（日）
　　文化財建造物専門家育成講習会

□１２月　２日（土）
　　伊東豊雄講演会・薬師寺食堂特別拝観

□１２月　７日（木）
　　二級建築士合格発表（予定）

□１２月　８日（金）
　　建築士全国大会（京都）

□１２月１７日（日）
　　文化財建造物専門家育成講習会

□１２月１９日（火）
　　監理技術者講習

□１２月２１日（木）
　　一級・木造建築士試験合格発表（予定）

□１２月２９日（金）～1月３日（水）
　　事務局休業

平成３０年

□　1月１４日（日）
　　文化財建造物専門家育成講習会

□　1月１８日（木）
　　奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会

□　1月２６日（金）
　　平成３０年新年大交歓会
　　（於：ホテルリガーレ春日野）

□　1月２８日（日）
　　文化財建造物専門家育成講習会

～　編集後記　～

超大型で強い台風がやってきてｽﾏﾎの「避難準備」のｱﾗｰﾑがけたたましく鳴り大変びっくりしました。皆様大事はなかったでしょうか？被害にあわれました方お見舞い申し上げます。またここ一週間ほど前から急に寒くなってまいりました。体調など崩されていませんでしょうか？

今回またﾌｰﾌﾟ担当をさせていただいています。

三委員会合同の弾丸建築の旅はいつも効率よく建築を見て回ることのできる大変有意義なﾂｱｰです。真鍮、錫の切金が使われた「能作本社」、ｶﾞﾗｽとｱﾙﾐﾀﾞｲｷｬｽﾄの地元素材の「富山市ｶﾞﾗｽ美術館」、ｱﾙﾐ鋳物ﾊﾟﾈﾙの「高志の国文学館」といろいろな素材の建物の見学、羨ましく、今回の参加できず残念に思います。世界一美しいｽﾀﾊﾞでﾏﾝｺﾞｰﾌﾗﾍﾟﾁｰﾉとｱｯﾌﾟﾙﾊﾟｲ食べたかったなあ。

和室部会の活動も始まっています。楽しみです。また前々号から始まっています「私の好きな○○」の記事は日頃なかなかお会いすることができない女性会員様が興味を持たれていることを情報発信していただく場で会員間のﾈｯﾄﾜｰｸの場となりますよう順にお声をかけさせていただいていますので寄稿をお願いします。

（庄田　尚代）